視点

私の「ドバイ・ショック」
―グローバル近未来都市に学べ―

日本証券アナリスト協会　常務理事
渥　美　恭　弘

リーマンショック後の2009年に起きた「ドバイ・ショック」のことではない。私がこの春初めてUAEのドバイ首長国を観光旅行した時の「ショック」のことだ。噂には聞いていたが、「百聞は一見に如かず」。空港からの車窓に次から次へと現れる超高層ビル群。東京では決してお目にかかることのないような斬新な設計に驚かされる。ねじ曲がったらせん状のビルは私の常識を覆す。世界一の828メートルを誇るブルジュ・ハリファは神秘的だ。もっと驚かされるのは、既に立っている超高層ビルと同じくらいの数百の超高層ビルが現在建設中であることだ。世界中の建設作業員とクレーンがドバイに集まっているようだ。24時間フル稼働で工期に間に合わせようと必死だ。紀伊國屋書店やダイソーも入っている、世界一大きい「ドバイ・モール」は、米国式のモールを更に大規模化したものだが、それでも、地元の人、観光客が混じり、常にごった返している。その横にある、やはり世界最大の噴水「ドバイ・ファウンテン」の水と光とアラブ音楽のショーは伝統とITの見事な融合だ。世界一長い距離を無人運転する「ドバイ・メトロ」はゆったりと快適で、日系企業が中心となって受注・建設しただけあって、日本並みに運行時間が厳守されている。17年３月現在ドバイの人口（外国人も含む）は、約275万人（外国人登録者含む）と、21世紀に入ってから３倍近くに急上昇した。

私は、IMFやIDBという発展途上国の開発を支援する国際機関に長年勤務した経験があるので、出張先の中南米等の新興国で人々の発展への熱意やエ